

おしゃべり通信

No. 248 R2.7.1 発行 如春会 浦田医院

「新しい生活様式」 発想の転換で心を楽しみ実践しましょう

過日、国が示した「新しい生活様式」（おしゃべり通信 No. 246 で紹介）には、こと細かに具体例が示されました。感染防止は必要ですが、現状でどこまで厳しく実践すべきか、とまどう場面が多いのも事実です。さらに、「新しい生活様式」には個人の意識だけでなく、時差出勤や在宅勤務など社会のルールや認識が変わらなければできないことも含まれます。

緊急事態宣言中は「できるだけ家にいよう」を求められてきたわけですが、今は「リスクを抑えつつ経済活動も再開するよう」社会が動き出しています。「〇〇するな」ではなく「選択」を後押しできる工夫があれば、「新しい生活様式」を取り入れ、実践しやすくなるかもしれません。そのヒントを紹介します。

【新しい生活様式を実践するヒント】



- ・ 基本は在宅勤務とし、申請して出社する仕組みを採用



特別強い好みがないと、人は与えられた選択枝を選びがちです。基本のスタイルを社会が変えていくことで、人の選択が変わります。

- ・ ホームページでテイクアウト対応店を掲載する
- ・ 「換気がいい」「座席数を減らしている」などの感染対策をしている店舗にはアイコンをつける

情報を探すための手間を省くと、選択しやすいです。

- ・ 横並びの席は「景色を楽しむ席」と名付ける

ものの考え方や受け止め方を変えてみると、案外楽しく取り組みそうです。



- ・ プロ野球は「リモート応援」で開幕

3か月遅れで開幕したプロ野球公式戦ですが、無観客試合となっています。しかし、ファンはオンラインでつながり、テレビで戦況を見つめながらオンラインツールでその声援を選手に届けたり、会場を盛り上げたりする工夫がなされています。せっかく対策していてもスポーツバーで密になっては意味がありません。そのような状況が身の回りにはありませんか？

制限を設ける場合は、「みんなが協力すればどういう利益が社会に生じるか」を丁寧に説明する必要があります。

例えば、「外出時はマスクを着用」について、みなさんはこの理由を理解した上で実践できているでしょうか？マスク着用で登校するように指示している学校もありますが、その理由をお子さんに説明できているでしょうか？中にはさまざまな理由でマスク着用ができない人もいます。

マスクはあくまでも感染防止対策のひとつ。マスクに代わる飛沫を防止する工夫をし、その「目的」に合った対応ができれば良いと考えられます。



また、マスクを着用しての保育や教育にはどのような欠点があるか考えてみましょう。皆さんはどう思いますか？



新しいルールには合理的な理由が必要で、それが理解できていないと思わぬ人間関係のトラブルにもなりかねません。

新型コロナでは、感染した場合に重症化しやすい高齢者や基礎疾患がある人とそうでない人では脅威の感じ方が違って当然です。それぞれの行動が社会に与える影響について考え、今できることを協力してこの苦境を乗り越えたいものです。



臨時休校からみえてきたもの ①

～宿題～

この春は、新型コロナウイルス感染拡大防止策として全国で約2～3カ月間の臨時休校となりました。

「学校の長期休み = 大量の宿題」というイメージがあり、今回の臨時休校でも、急に決まった休校を目前に教員が宿題作りに頭を抱えていると報道されていましたが、もともと宿題は何のために提供されているのでしょうか？

その歴史を遡ると、学校が家庭での漢字や演算の「反復練習」を求めたのが発端ですが、近年になり、内申書の導入で「家庭教育」として宿題が浸透しました。これについても賛否両論色々な意見がありますよね。

〈保護者〉・・・子どもの学習を担うのは学校の役割なのでは？

教師の仕事の押し付けでは？

一方で宿題がないのは不安

〈教員〉・・・家庭学習の定着につなげたい

親の要望がある



例えば、漢字の練習の宿題では、先に送り仮名だけマスを埋め、漢字を後で書いていくという方法で、宿題を「こなす」ことが主眼となっている児童・生徒もいます。

書店でドリルを買って与えても、宿題への取り組みの方が真剣で、保護者が「宿題を出してほしい」と望むことも多いようです。

「現状の『宿題』は学力向上につながっているのか」

「何のため誰のための宿題なのか」

「子どもの学びの場が家庭に戻された今、家庭学習をどうしていくか」

あなたはどのように考えますか？